

参考：これまでの検討内容

(1)子育てしやすいまちづくりプロジェクト検討会議

①目的

「子育てしやすいまちづくりプロジェクト」を推進するにあたり，教育関係機関，地域住民，民間事業者，金融機関，大学，設計事務所等で構成する「子育てしやすいまちづくりプロジェクトチーム」を設置し，第1児童館を改修するためのコンセプト策定，必要な機能・体制といった事業計画（施設改修計画）に関する協議・検討を行いました。

〔会議の様子〕



②開催スケジュール

第1回会議

日時：令和3年7月27日（火） 午後2時から

場所：コミュニティセンター川辺文化会館 産業研修室2

- 検討内容：
- ・委員自己紹介，委員長及び副委員長選出
 - ・「子育てしやすいまちづくりプロジェクト」会議の目的，経緯説明
 - ・第1児童館の運営状況報告，子育て支援事業の利用状況報告
 - ・他自治体や民間による取組み事例紹介
 - ・第1児童館に望むこと，役割について協議

第2回会議

日時：令和3年9月30日（木） 午後2時から

場所：コミュニティセンター川辺文化会館 産業研修室2

- 検討内容：
- ・市民アンケート結果報告
 - ・事業コンセプト，改修する第1児童館の必要機能及び整備等の検討

第3回会議

日時：令和3年11月10日（水） 午後2時から

場所：コミュニティセンター川辺文化会館 産業研修室2

- 検討内容：
- ・事業コンセプトの検討（委員から事前に案提出。視察先の紹介。）
 - ・改修する第1児童館の必要機能及び整備等の検討

第4回会議

日時：令和3年12月3日（金） 午後2時から

場所：コミュニティセンター川辺文化会館 産業研修室2

- 検討内容：
- ・事業コンセプトとスキームの提案（意見交換），施設改修図面の確認

第5回会議

日時：令和3年12月21日（火） 午後2時から

場所：南九州市市民交流センターひまわり館

- 検討内容：
- ・施設改修修正図面の確認，事業計画の基本方針の提案
 - ・施設の発展的な活用方法の検討

第6回会議

日時：令和4年3月8日（火） 午後2時から

場所：南九州市市民交流センターひまわり館

- 検討内容：
- ・パブリックコメントの実施結果について
 - ・「子育てしやすいまちづくりプロジェクト事業計画書／施設改修計画書」の策定について
 - ・施設名称について
 - ・令和4年度の事業計画等について

③委員名簿

■委員（敬称略）

No.	所属	役職	氏名	備考
1	保育所（穎娃地域） 代表	委員	高吉 明美	御領保育園
2	保育所（知覧地域） 代表	委員	澤村 剛	大徳寺保育園
3	保育所（川辺地域） 代表	委員	有馬 周平	緑が丘保育園・こばとこども園
4	南九州市 PTA 連絡協議会 代表	委員	小野 郁美	川辺小学校 P T A
5	南九州市地域 子育て支援センター 代表	副 委員長	瀧 義道	
6	療育施設 代表	委員	松久保 こずえ	サポートセンター る・トレフル
7	児童館運営委員	委員	安田 亜美	
8	保育所・認定こども園 （川辺地域）	委員長	三木 隆朋	認定こども園川辺幼稚園・ かつめこども園
9	保育所・認定こども園 （川辺地域）	委員	中村 英嗣	おののもりこども園
10	保育所・認定こども園 （川辺地域）	委員	上之 悟史	こども園ほしのこ
11	鹿児島大学	委員	前田 晶子	鹿児島大学学術研究院 法文教育学域教育学系教授
12	南九州市商工会	委員	児玉 晃一	南九州市商工会会員
13	南九州市商工会	委員	鶴田 大悟	南九州市商工会会員
14	設計事務所	委員	射手園 武也	（有）木空間
15	金融機関	委員	平野 哲郎	南日本銀行 川辺支店 支店長
16	南九州市 建築住宅課 建築係 係長	委員	村田 拓之	
17	南九州市 健康増進課 健康推進係 主査	委員	牟田口 照代	
18	南九州市教育委員会 社会教育課 社会教育係 主任主査	委員	上野 一二三	

■事務局

No.	所属	氏名	備考
1	南九州市 福祉課長	有水 志郎	
2	南九州市 福祉課 子育て支援係 係長	高吉 秀樹	
3	南九州市 福祉課 子育て支援係 主任主査	朝隈 兼典	
4	一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab （南九州市地域おこし協力隊）	原本 太郎	
5	株式会社 九州経済研究所 企画戦略部 部長	後田 廣孝	
6	株式会社 九州経済研究所 企画戦略部 主任研究員	鉾之原 竜一	
7	株式会社 九州経済研究所 企画戦略部 研究員	西村 智秋	

(2)市民意向の把握（アンケート調査）

①目的

子育て支援や就労支援に関するニーズを把握し、「子育てしやすいまちづくりプロジェクト」の事業計画の策定や、拠点となる第1児童館の整備に関する基礎資料とするため、小学生以下の子どもを養育している市内在住の保護者全員にアンケート調査を実施しました。

アンケート結果につきましては、子育てしやすいまちづくりプロジェクト検討会議で委員へ公表し、本計画書を策定するための参考としています。

②調査実施期間

令和3年8月（約2週間）

③調査対象者等

調査地域 南九州市全域

調査対象者 小学生以下の子どもを養育している市内在住の保護者全員

調査対象者数 1,622世帯※

※対象者については住民基本台帳を基に以下の区分で抽出(令和3年4月1日基準)
・平成21年4月2日以降に生まれた方

④調査方法

無記名方式／郵送による発送・回収及びインターネット上での回収

⑤調査票の回収結果

配布数	有効回答数	回収率
1,622 件	823 件	50.7%

※有効回答数内訳：郵送 593 件，インターネット 230 件（8/31べ切）

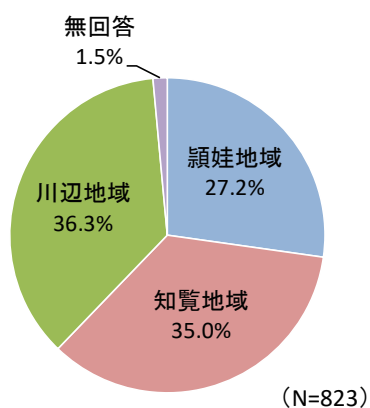
⑥調査結果利用上の注意

・回答率は百分比の小数第2位を四捨五入しているため 合計が 100 %にならない場合がある。

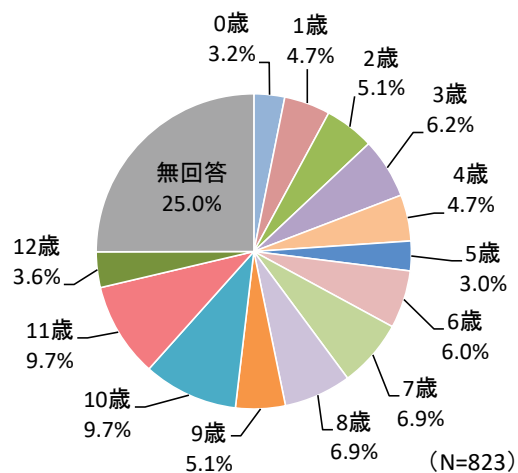
⑦アンケート結果（抜粋）

i) 回答者の属性

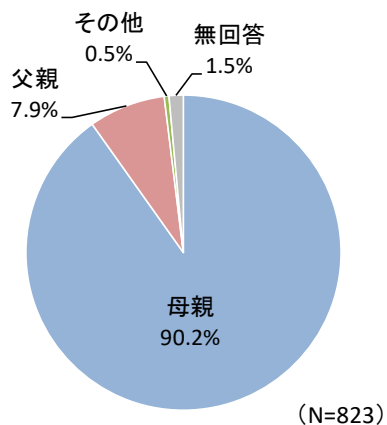
■居住地域



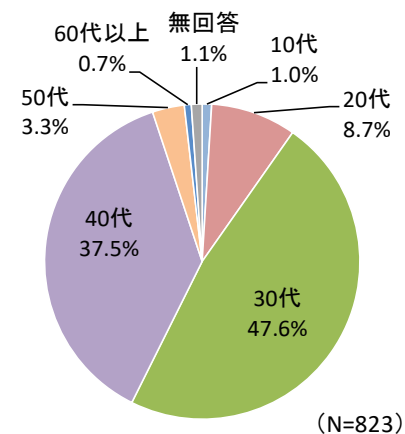
■調査対象者の年齢



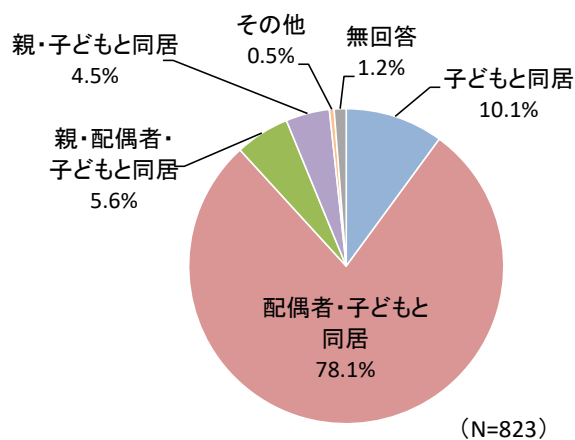
■回答者（お子さんからみた関係）



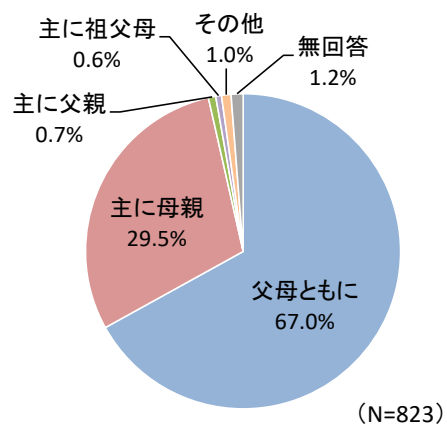
■年代



■家族構成



■お子さんの子育て（教育を含む）の中心



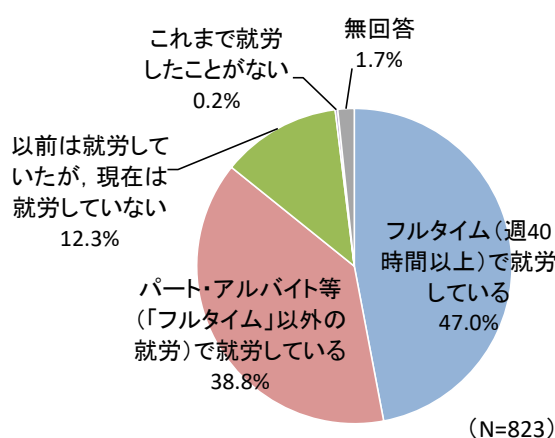
ii) 保護者の就労状況や働き方の希望について

■保護者の就労状況

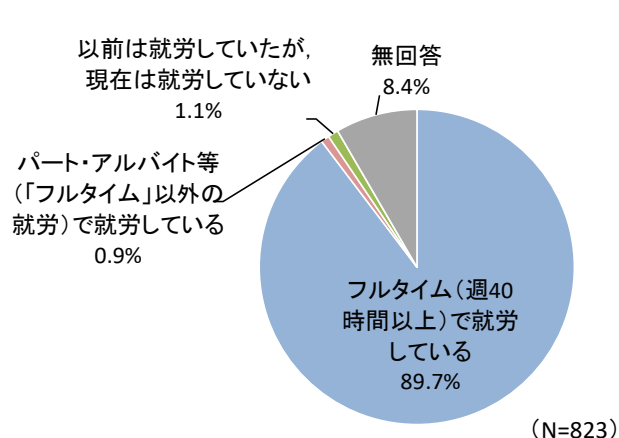
保護者の就労状況は、母親は「フルタイム(週40時間以上)で就労している」が47.0%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労している」(38.8%),「以前は就労していたが、現在は就労していない」(12.3%)となっており、就労している方が8割超であった。一方、父親は「フルタイム(週40時間以上)で就労している」が89.7%と最も多い。

〔保護者の就労状況〕

(母親)



(父親)

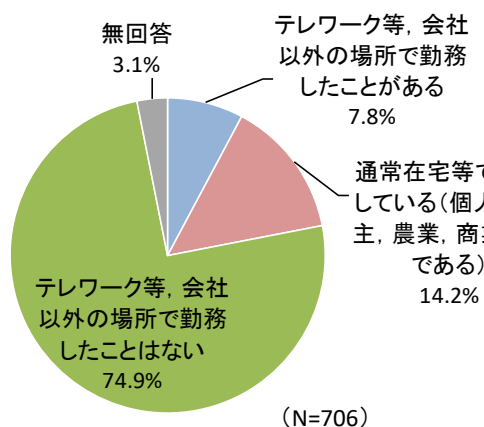


■テレワーク等、会社以外の場所での勤務の有無 対象：就労中の方

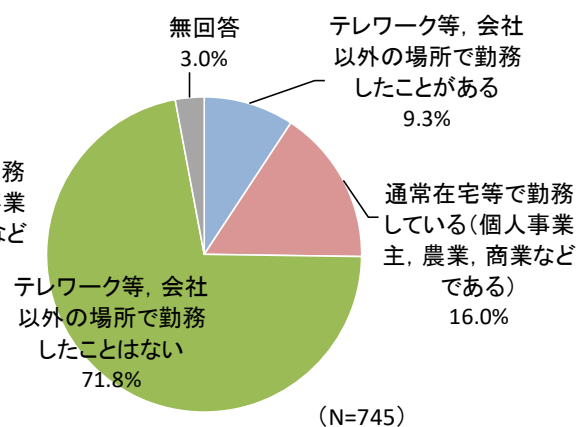
テレワーク等、会社以外の場所での勤務の有無については、母親・父親ともに「テレワーク等、会社以外の場所で勤務したことはない」が母親74.9%、父親71.8%と最も多くなっている。「テレワーク等、会社以外の場所で勤務したことがある」については、母親7.8%、父親9.3%と少ないものの、1カ月あたりの就労日数のうち、在宅等勤務の割合を算出すると、母親47.6%(有効回答：29件)と約半数は在宅で勤務しており、一方、父親は19.7%(有効回答：33件)と2割弱であった。

〔テレワーク等、会社以外の場所での勤務の有無〕

(母親)



(父親)



■産前・産後、育児休暇の取得について 対象：就労中もしくは就労していた方

産前・産後、育児休暇の取得については、母親・父親で取得率に大きな差がみられた。

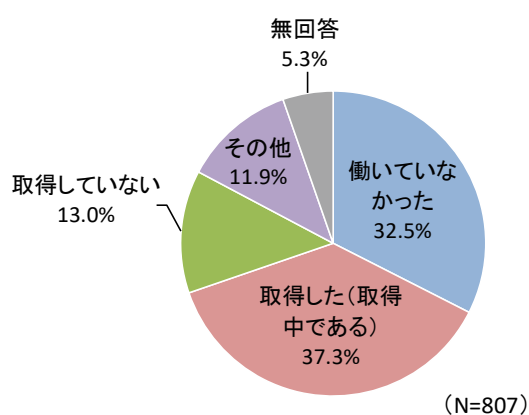
母親は「取得した（取得中である）」が37.3%と最も多く、次いで「働いていなかった」（32.5%）、「取得していない」（13.0%）の順となっている。一方、父親は「取得していない」が73.2%と過半数以上を占め、「取得した（取得中である）」はわずか2.3%であった。

取得期間（全体）については、「1歳」が39.4%と最も多いものの、「1歳未満」で職場復帰する人も38.0%と多く、前回調査「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」（H31.1実施）のなかで理由として最も多かった「希望する保育所等に入るため」が要因として考えられる。また、母親に比べ、父親の取得期間が短い傾向もうかがえる。

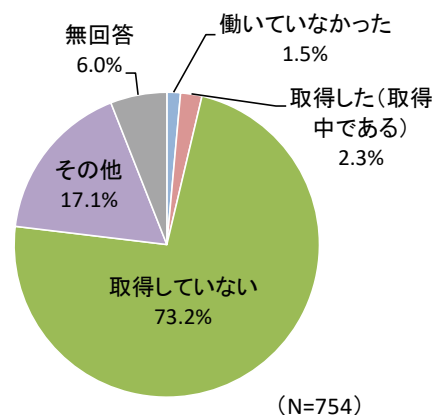
「その他」の理由は、主に「自営業（家族経営）」（母親53件、父親81件）、「制度なし（対象外）」（母親20件、父親19件）、「出産を機に退職」（母親8件）となっている。

〔産前・産後、育児休暇の取得について〕

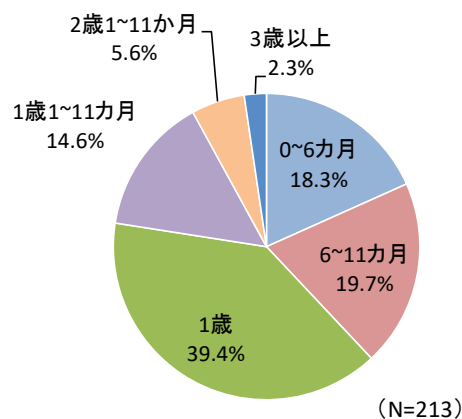
（母親）



（父親）



〔取得期間〕



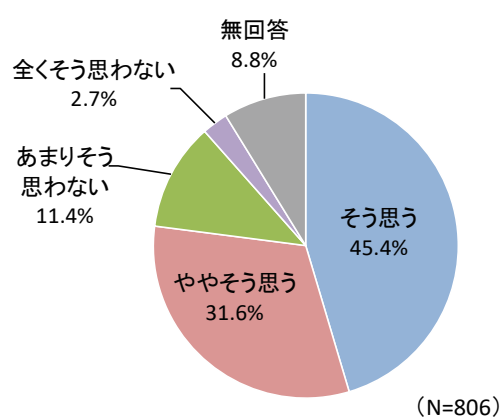
■働き続けることが出来る環境（働きやすい環境）にあるか 対象：就労中の方

働き続けることが出来る環境（働きやすい環境）にあると思うかについては、「そう思う」が 45.4%と最も多く、次いで「ややそう思う」（31.6%）、「あまりそう思わない」（11.4%）の順となっている。「そう思う」「ややそう思う」との回答が7割超であった。

「そう思う」「ややそう思う」の理由は、「職場（上司・同僚）の理解がある」といった意見が最も多く、「家族のサポートがある」「自営業（家族経営）」といった意見も多かった。しかし、「ややそう思う」と回答していても、「産休や育休、急な子どもの体調不良等で休むときに言いにくい」といった意見もあり、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の理由でも、こうした意見が顕著にみられた。

また、勤務の形態に合わせた預け先（学童保育・保育所等）や頼り先がない（遠い）ことも、働きにくさの要因となっていると考えられる。

〔働き続けることが出来る環境（働きやすい環境）にあるか〕



〔働き続けることが出来る環境（働きやすい環境）にあるか（回答者別）〕

上段：回答数 下段：%	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答
全体	361 45.4	251 31.6	91 11.4	22 2.8	70 8.8
母親	327 44.9	229 31.4	85 11.7	18 2.5	70 9.6
父親	33 51.6	21 32.8	6 9.4	4 6.3	- -
その他	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -

■今後の就労希望について 対象：就労していない方

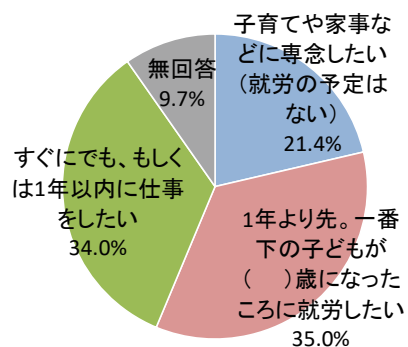
現在，就労していない方の今後の就労希望は，母親は「1年より先。一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」が35.0%と最も多く，次いで「すぐにでも，もしくは1年以内に仕事をしたい」(34.0%)の順となっている。父親は「すぐにでも，もしくは1年以内に仕事をしたい」が55.6%となっており，母親，父親ともに就労希望が過半数を超えている。

一番下の子は何歳になったら就労したいかについては，「1歳」は22.2%と最も多く，次いで「3歳」(16.7%)，「6歳」(13.9%)の順となっている。保育所・幼稚園（こども園）への入園もしくは小学校入学のタイミングでの就労希望が多いことがうかがえる。

就労形態については，母親は「パートタイム・アルバイト等」が60.0%と最も多く，次いで「フルタイム（1日週5日程度・1日8時間程度の就労）」(25.7%)の順となっており，「個人事業主」も14.3%であった。対し，父親は「フルタイム（1日週5日程度・1日8時間程度の就労）」が60.0%であった。

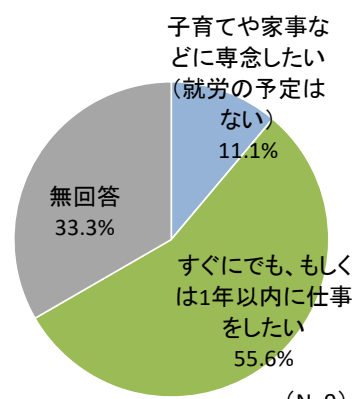
〔今後の就労希望について〕

(母親)



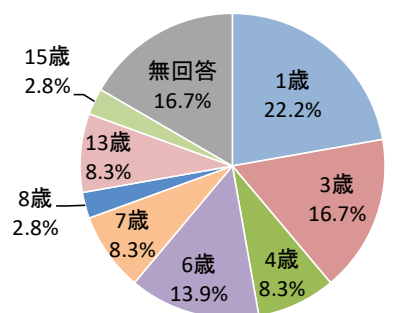
(N=103)

(父親)



(N=9)

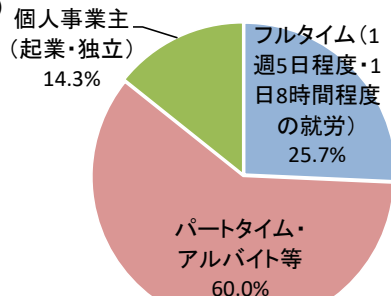
〔下の子は何歳になったら就労したいか（母親）〕



(N=36)

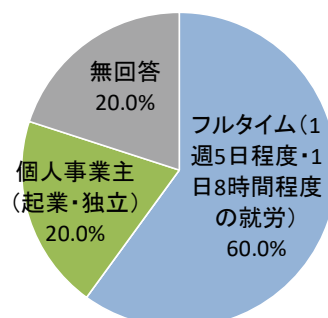
〔今後希望する就労形態〕

(母親)



(N=35)

(父親)



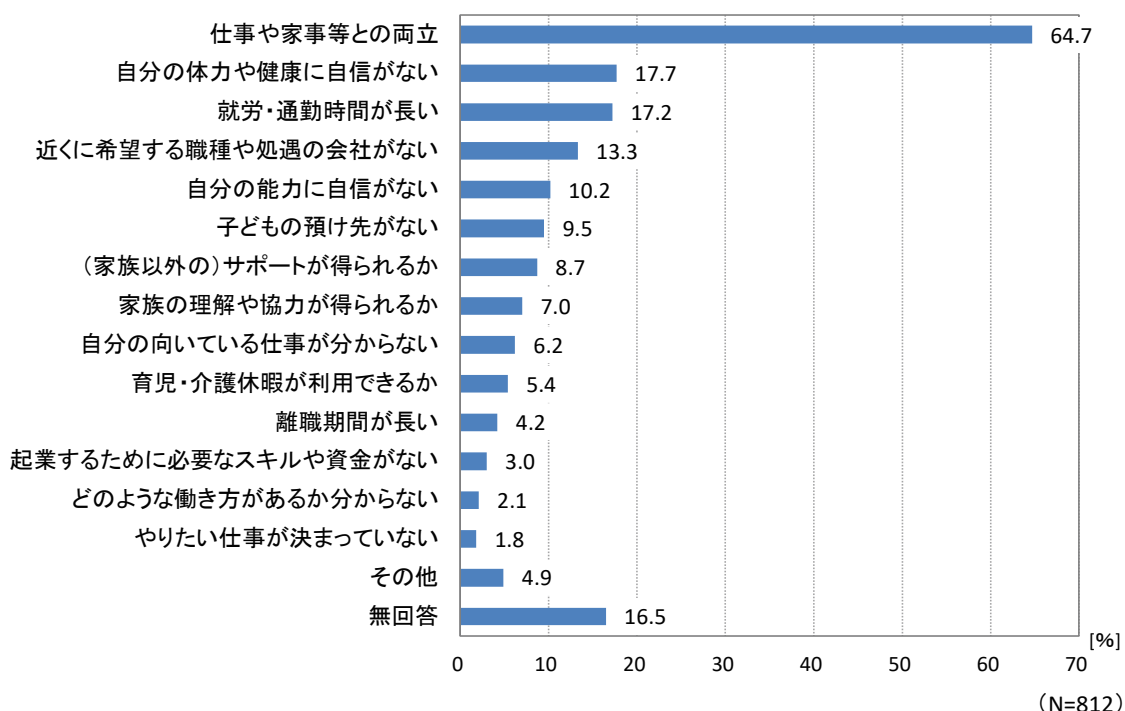
(N=5)

■働く上で負担や悩みだと思うこと 対象：就労中もしくは就労希望のある方

働く上で不安や悩みだと思うことは、「仕事や家事等との両立」が64.7%と最も高く、次いで「自分の体力や健康に自信がない」(17.7%),「就労・通勤時間が長い」(17.2%)の順となっている。「その他」では病児保育がないことから、子どもの病気の際に係る負担の意見等がみられた。

年代別でみると、10～20代は「近くに希望する職種や処遇の会社がない」の割合が高くなっているが、30～50代は「就労・通勤時間が長い」の割合が高くなっている。

〔働く上で負担や悩みだと思うこと〕



〔働く上で負担や悩みだと思うこと（年代別）〕

※ ■第1位 ■第2位 ■第3位の項目

上段:回答数 下段:%	仕事 や家事 等との 両立	近 く に 希 望 す る 職 種 や 処 遇 の 会 社 が な い	就 労 ・ 通 勤 時 間 が 長 い	子 ど も の 預 け 先 が な い	自 分 の 能 力 に 自 信 が な い	自 分 の 体 力 や 健 康 に 自 信 が な い	離 職 期 間 が 長 い	育 児 ・ 介 護 休 暇 が 利 用 で き る か	家 族 の 理 解 や 協 力 が 得 ら れ る か	サ ポ ー ト が 得 ら れ る か (家 族 以 外 の)	自 分 の 向 い て い る 工 事 が 分 か ら な い	決 ま っ て い な い や り た い 工 事 が	働 き 方 が あ る か 分 か ら な い ど の よ う な	起 業 す る た め に 必 要 な ス キ ル や 資 金 が な い	そ の 他	無 回 答
10代	6 75.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	4 50.0	1 12.5	- -	- -	1 12.5	1 12.5	1 12.5	- -	- -	- -	2 25.0
20代	48 66.7	13 18.1	4 5.6	3 4.2	7 9.7	11 15.3	7 9.7	10 13.9	4 5.6	11 15.3	6 8.3	1 1.4	2 2.8	1 1.4	1 1.4	9 12.5
30代	276 71.0	50 12.9	88 22.6	43 11.1	42 10.8	63 16.2	17 4.4	21 5.4	31 8.0	27 6.9	28 7.2	6 1.5	10 2.6	10 2.6	19 4.9	53 13.6
40代	173 56.9	39 12.8	43 14.1	26 8.6	30 9.9	56 18.4	8 2.6	11 3.6	20 6.6	29 9.5	15 4.9	6 2.0	5 1.6	12 3.9	20 6.6	61 20.1
50代	16 59.3	2 7.4	4 14.8	2 7.4	1 3.7	6 22.2	- -	2 7.4	1 3.7	1 3.7	- -	- -	- -	- -	- -	7 25.9
60代以上	1 25.0	1 25.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 25.0	- -	1 25.0	- -	1 25.0	- -	1 25.0

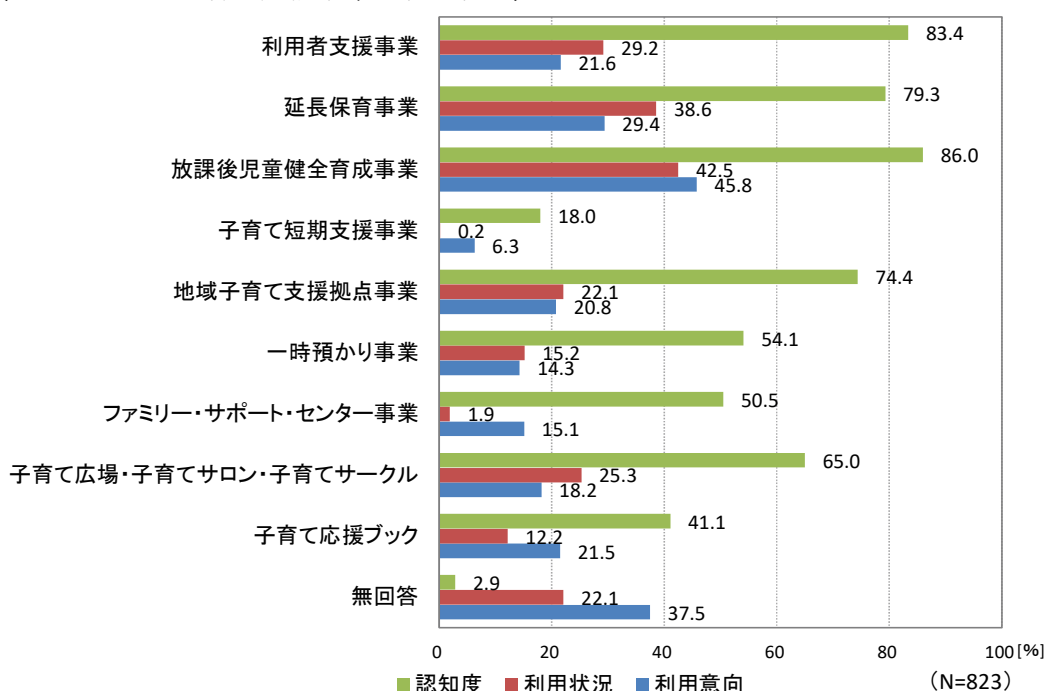
iii) 地域子ども・子育て支援事業の利用状況

■地域子ども・子育て支援事業の利用状況

地域子ども・子育て支援事業の認知度は、「放課後児童健全育成事業」や「延長保育事業」等、子どもの預け先となる事業や、「利用者支援事業」「地域子育て支援事業」等、子育て支援活動に関する事業が上位となっている。また、これらの事業は利用状況や利用意向も高い傾向がある。特に「放課後児童健全育成事業」は利用状況・利用意向は4割を超えており、利用回数※も多く、夏休み期間中のみ利用している状況もある。

※利用回数：回数に幅のあるもの（例：1～2回）は最大数、「毎日」との回答は、就労日数が分かる場合には就労日数、分からない場合には平日勤務平均として20日として計算。下表は、平均値を算出。

〔地域子ども・子育て支援事業の利用状況〕

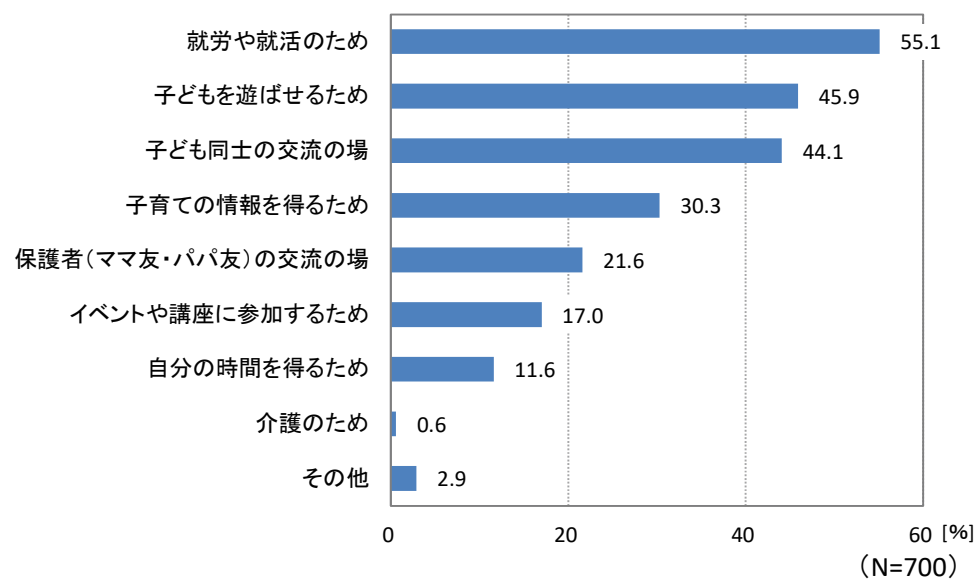


上位：回答数 下位：%	A	B		C
	知っている	これまでに利用 したことがある	利用回数※ (1カ月あたり)	今後利用したい
利用者支援事業 (子育て利用者支援センター「つみき」)	686 83.4	240 29.2	2.18回	178 21.6
延長保育事業	653 79.3	318 38.6	5.30回	242 29.4
放課後児童健全育成事業 (学童保育)	708 86.0	350 42.5	16.76回	377 45.8
子育て短期支援事業 (ショートステイ)	148 18.0	2 0.2	—	52 6.3
地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター「つみき」)	612 74.4	182 22.1	2.63回	171 20.8
一時預かり事業	445 54.1	125 15.2	6.57回	118 14.3
ファミリー・サポート・センター事業	416 50.5	16 1.9	2.64回	124 15.1
子育て広場・子育てサロン・子育てサークル	535 65.0	208 25.3	2.99回	150 18.2
子育て応援ブック	338 41.1	100 12.2	1.76回	177 21.5

■地域子ども・子育て支援事業の利用目的

地域子ども・子育て支援事業の利用目的は、「就労や就活のため」が55.1%と最も高く、次いで「子どもを遊ばせるため」(45.9%)、「子ども同士の交流の場」(44.1%)の順となっている。子どもの預け先に関する事業や子育て支援活動に関する事業の利用需要が高いため、利用目的についても事業内容に沿う結果が得られた。「その他」では、「通院(自分・親・子どものきょうだい)」「子育てのストレス発散」等の意見があった。

〔地域子ども・子育て支援事業の利用目的〕



〔地域子ども・子育て支援事業の利用目的（利用状況・利用意向別^(注)）〕

※ ■ 第1位 ■ 第2位 ■ 第3位の項目

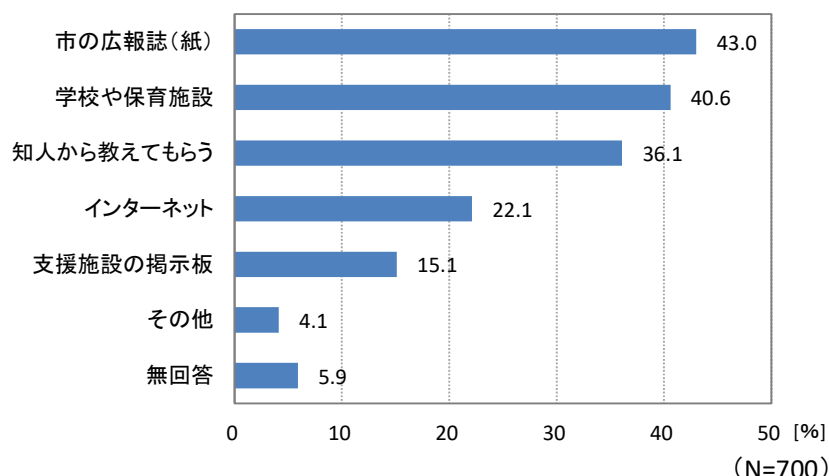
		就 労 や 就 活 の た め	遊 ば せ る た め	子 ど も 同 士 の 交 流 の 場	バ パ 友 の 交 流 の 場	保 護 者 （ マ マ 友 ） の 交 流 の 場	情 報 を 得 る た め	講 座 に 参 加 す る た め	イ ベ ン ト や 得 る た め	自 分 の 時 間 を	介 護 の た め	そ の 他	無 回 答
上段：回答数 下段：%													
利用状況	利用者支援事業	89 37.1	181 75.4	136 56.7	80 33.3	96 40.0	76 31.7	28 11.7	1 0.4	9 3.8	4 1.7		
	延長保育事業	220 69.2	140 44.0	144 45.3	66 20.8	86 27.0	50 15.7	44 13.8	2 0.6	7 2.2	12 3.8		
	放課後児童健全育成事業	261 74.6	120 34.3	142 40.6	60 17.1	78 22.3	49 14.0	47 13.4	2 0.6	7 2.0	19 5.4		
	子育て短期支援事業	2 100.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -	1 50.0	- -	- -	- -		
	地域子育て支援拠点事業	61 33.5	145 79.7	121 66.5	76 41.8	95 52.2	71 39.0	27 14.8	1 0.5	5 2.7	3 1.6		
	一時預かり事業	77 61.6	75 60.0	59 47.2	30 24.0	44 35.2	29 23.2	27 21.6	1 0.8	8 6.4	3 2.4		
	ファミリー・サポート・センター事業	6 37.5	12 75.0	10 62.5	4 25.0	7 43.8	4 25.0	3 18.8	1 6.3	2 12.5	- -		
	子育て広場・子育てサロン・子育てサークル	89 42.8	157 75.5	141 67.8	93 44.7	113 54.3	82 39.4	23 11.1	1 0.5	4 1.9	4 1.9		
	子育て応援ブック	56 56.0	64 64.0	61 61.0	37 37.0	52 52.0	32 32.0	15 15.0	1 1.0	3 3.0	1 1.0		
利用意向	利用者支援事業	70 39.3	137 77.0	113 63.5	68 38.2	91 51.1	59 33.1	29 16.3	- -	4 2.2	3 1.7		
	延長保育事業	146 60.3	125 51.7	116 47.9	63 26.0	88 36.4	44 18.2	42 17.4	2 0.8	6 2.5	7 2.9		
	放課後児童健全育成事業	232 61.5	182 48.3	174 46.2	85 22.5	122 32.4	81 21.5	61 16.2	2 0.5	9 2.4	13 3.4		
	子育て短期支援事業	26 50.0	28 53.8	35 67.3	22 42.3	23 44.2	13 25.0	12 23.1	1 1.9	2 3.8	1 1.9		
	地域子育て支援拠点事業	63 36.8	131 76.6	107 62.6	70 40.9	94 55.0	63 36.8	30 17.5	- -	3 1.8	4 2.3		
	一時預かり事業	57 48.3	73 61.9	64 54.2	34 28.8	50 42.4	36 30.5	31 26.3	1 0.8	5 4.2	3 2.5		
	ファミリー・サポート・センター事業	61 49.2	84 67.7	72 58.1	46 37.1	66 53.2	43 34.7	22 17.7	1 0.8	5 4.0	1 0.8		
	子育て広場・子育てサロン・子育てサークル	59 39.3	111 74.0	91 60.7	58 38.7	82 54.7	50 33.3	19 12.7	1 0.7	3 2.0	3 2.0		
	子育て応援ブック	89 50.3	104 58.8	98 55.4	54 30.5	93 52.5	47 26.6	23 13.0	1 0.6	3 1.7	4 2.3		

(注)利用目的については、地域子育て支援事業別ではなく、利用したことがある(利用している)方、利用意向のある方に複数選択で回答いただいているため、それぞれの事業目的と合わない結果もあり、一概に言えない。

■地域子ども・子育て支援事業の情報収集

地域子ども・子育て支援事業の情報収集は、「市の広報誌（紙）」が 43.0%と最も多く、次いで「学校や保育施設」（40.6%）、「知人から教えてもらう」（36.1%）の順となっている。放課後児童健全育成事業や一時預かり事業については、学校や保育施設等から情報を得やすい。「その他」では「つみきの情報誌」「保健師からの情報」等の意見があった。

〔地域子ども・子育て支援事業の情報収集〕



〔地域子ども・子育て支援事業の情報収集（利用状況・利用意向別）〕

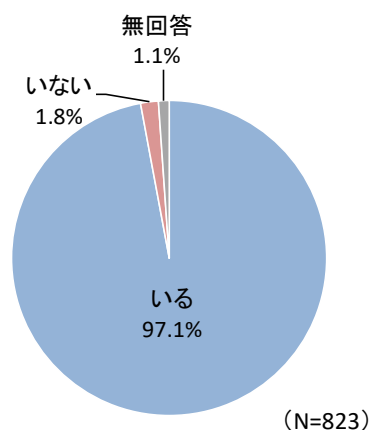
※ ■ 第1位 ■ 第2位 ■ 第3位の項目

上段：回答数 下段：%		市の広報誌 (紙)	インター ネット	知人から教 えてもらう	支援施設の 掲示板	学校や保育 施設	その他	無回答
利用状況	利用者支援事業	133 55.4	70 29.2	91 37.9	61 25.4	67 27.9	18 7.5	5 2.1
	延長保育事業	131 41.2	67 21.1	114 35.8	48 15.1	165 51.9	16 5.0	13 4.1
	放課後児童健全育成事業	135 38.6	49 14.0	126 36.0	48 13.7	191 54.6	9 2.6	21 6.0
	子育て短期支援事業	2 100.0	- -	1 50.0	- -	2 100.0	- -	- -
	地域子育て支援拠点事業	101 55.5	63 34.6	70 38.5	51 28.0	44 24.2	19 10.4	4 2.2
	一時預かり事業	59 47.2	26 20.8	47 37.6	26 20.8	60 48.0	10 8.0	5 4.0
	ファミリー・サポート・センター事業	7 43.8	8 50.0	4 25.0	4 25.0	1 6.3	4 25.0	- -
	子育て広場・子育てサロン・子育てサークル	113 54.3	58 27.9	91 43.8	56 26.9	62 29.8	17 8.2	5 2.4
	子育て応援ブック	61 61.0	35 35.0	43 43.0	18 18.0	41 41.0	10 10.0	- -
利用意向	利用者支援事業	111 62.4	63 35.4	65 36.5	47 26.4	45 25.3	11 6.2	4 2.2
	延長保育事業	129 53.3	68 28.1	82 33.9	49 20.2	100 41.3	9 3.7	9 3.7
	放課後児童健全育成事業	186 49.3	85 22.5	141 37.4	68 18.0	165 43.8	17 4.5	14 3.7
	子育て短期支援事業	37 71.2	12 23.1	18 34.6	15 28.8	21 40.4	2 3.8	- -
	地域子育て支援拠点事業	101 59.1	58 33.9	63 36.8	46 26.9	46 26.9	12 7.0	4 2.3
	一時預かり事業	70 59.3	40 33.9	35 29.7	34 28.8	38 32.2	7 5.9	3 2.5
	ファミリー・サポート・センター事業	73 58.9	37 29.8	44 35.5	36 29.0	34 27.4	14 11.3	1 0.8
	子育て広場・子育てサロン・子育てサークル	95 63.3	55 36.7	56 37.3	39 26.0	40 26.7	9 6.0	5 3.3
	子育て応援ブック	98 55.4	55 31.1	69 39.0	37 20.9	59 33.3	10 5.6	4 2.3

■子育てをする上で気軽に相談できる人はいるか

子育てをする上で気軽に相談できる人は、「いる」が 97.1%と最も多くなっている。

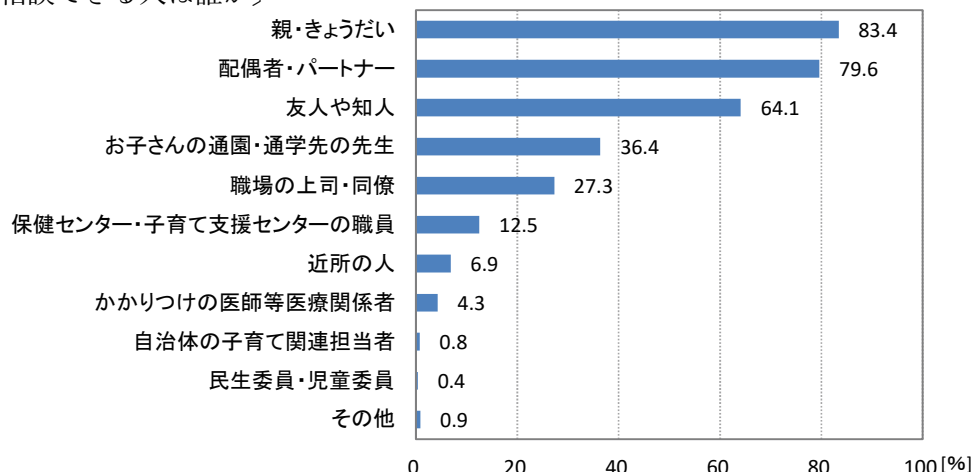
〔子育てをする上で気軽に相談できる人はいるか〕



■気軽に相談できる人は誰か

気軽に相談できる人は誰かについては、「親・きょうだい」が 83.4%と最も高く、次いで「配偶者・パートナー」(79.6%),「友人や知人」(64.1%)の順となっている。父親は母親に比べ、やや「配偶者・パートナー」へ相談する割合が高くなっている。「保健センター・子育て支援センターの職員」へ相談する割合も 1 割超であった。

〔気軽に相談できる人は誰か〕



〔気軽に相談できる人は誰か（回答者別）〕

(N=799)

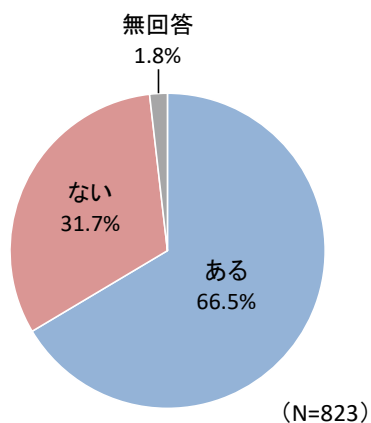
※ ■ 第 1 位 ■ 第 2 位 ■ 第 3 位の項目

上段：回答数 下段：%	配偶者・ パートナー	親・ きょうだい	友人や 知人	近所 の人	職場 の 上司・ 同僚	保健 センター・ 子育て 支援 センター の職員	通学 先の 先生 ・ お 子 さ ん の 通 園	民生 委員・ 児童 委員	医 師 等 医 療 関 係 者	自 治 体 の 子 育 て 関 連 担 当 者	そ の 他	無 回 答
母親	577 79.5	608 83.7	473 65.2	49 6.7	205 28.2	93 12.8	269 37.1	3 0.4	30 4.1	4 0.6	6 0.8	-
父親	51 85.0	48 80.0	31 51.7	6 10.0	9 15.0	7 11.7	20 33.3	-	3 5.0	2 3.3	-	-
その他	-	-	2 100.0	-	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-

■子育てをする上で気軽に相談できる場所はあるか

子育てをする上で気軽に相談できる場所は、「ある」が 66.5%と最も多く、次いで「ない」が 31.7%となっている。

〔子育てをする上で気軽に相談できる場所はあるか〕

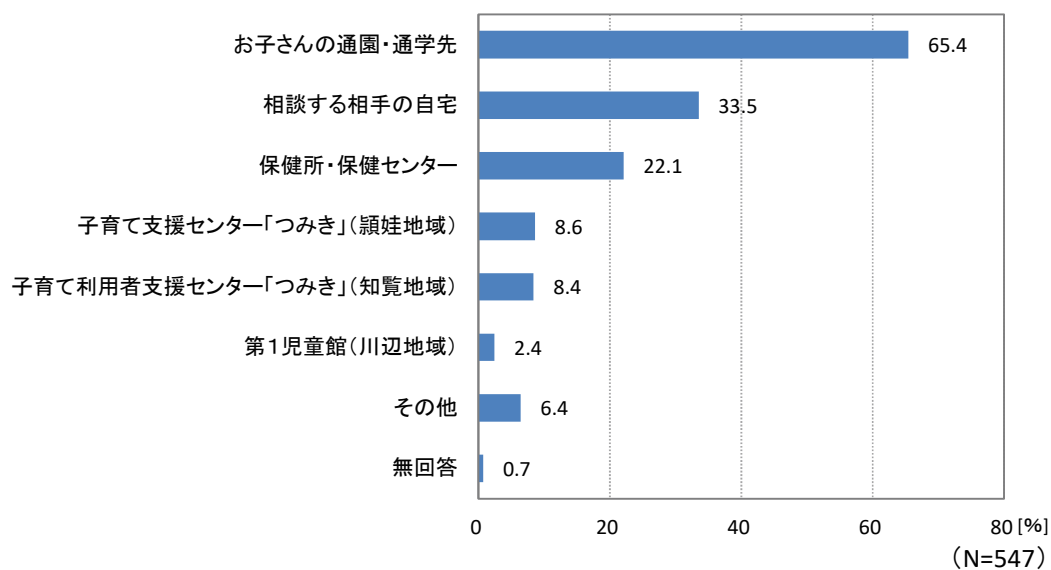


■気軽に相談できる場所はどこか

気軽に相談できる場所はどこかについては、「お子さんの通園・通学先」が 65.4%と最も高く、次いで「相談する相手の自宅」(33.5%),「保健所・保健センター」(22.1%)の順となっている。母親、父親での大きな違いは見られない。

「その他」では「自宅（電話等）」「療育センター」等の意見があった。

〔子育てをする上で気軽に相談できる場所はあるか〕

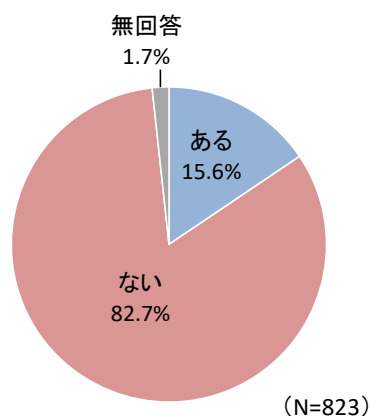


iv) これからの地域子ども・子育て支援事業に望むこと

■川辺地域にある「第1児童館」を利用したことがあるか

川辺地域にある「第1児童館」を利用したことがあるかについては、「ない」が82.7%と最も多く、「ある」は15.6%に留まった。また、利用者は「川辺地域」の方が大半を占めている。

〔川辺地域にある「第1児童館」を利用したことがあるか〕



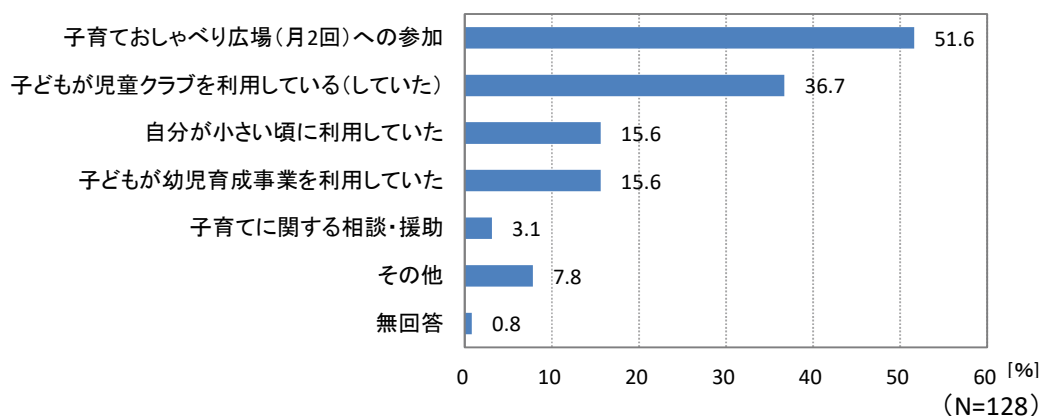
(地域別)

上段:回答数 下段:%	ある	ない	無回答
穎娃地域 (N=224)	2 0.9	216 96.4	6 2.7
知覧地域 (N=288)	27 9.4	257 89.2	4 1.4
川辺地域 (N=299)	97 32.4	199 66.6	3 1.0
無回答 (N=12)	2 16.7	9 75.0	1 8.3
合計 (N=823)	128 15.6	681 82.7	14 1.7

■「第1児童館」の利用目的

「第1児童館」の利用目的は、「子育ておしゃべり広場(月2回)への参加」が51.6%と最も高く、次いで「子どもが児童クラブに利用している(していた)」(36.7%),「自分が小さい頃に利用していた」「子どもが幼児育成事業を利用していた」(ともに15.6%)の順となっている。「その他」では「園庭(砂場・遊具)で遊ばせるため」等の意見があった。

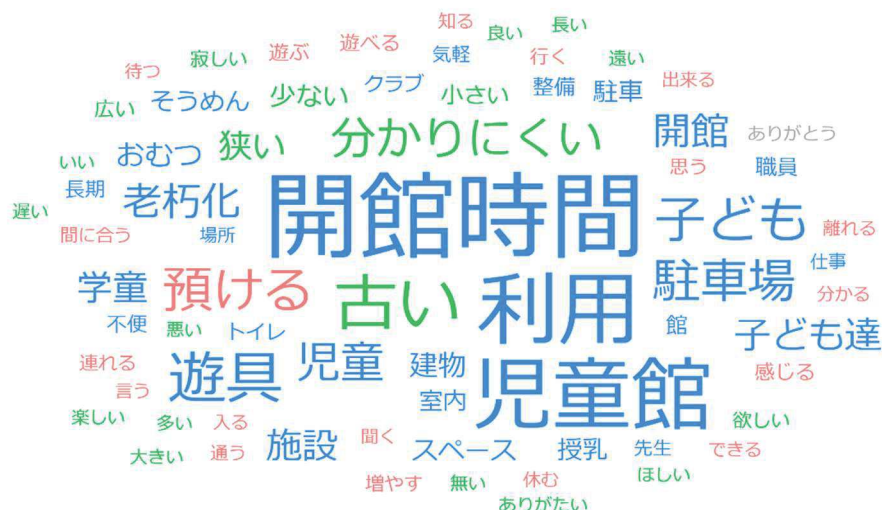
〔「第1児童館」の利用目的〕



「第1児童館」を利用して、不満・不便に思うことを記入いただき、テキストマイニングで分析した。テキストマイニングとは、通常の文章からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や共出現の相関、出現傾向などを分析することで有用な情報を取り出す分析方法のことである。

不満・不便に思うことについて、「開館時間」や「古い」、「遊具」、「駐車場」等の単語の出現回数が多くなっており、共起回数からも、開館時間の遅さや施設の老朽化、少ない（遠い）駐車場に対する不満が多くみられた。

(上位 共起回数)



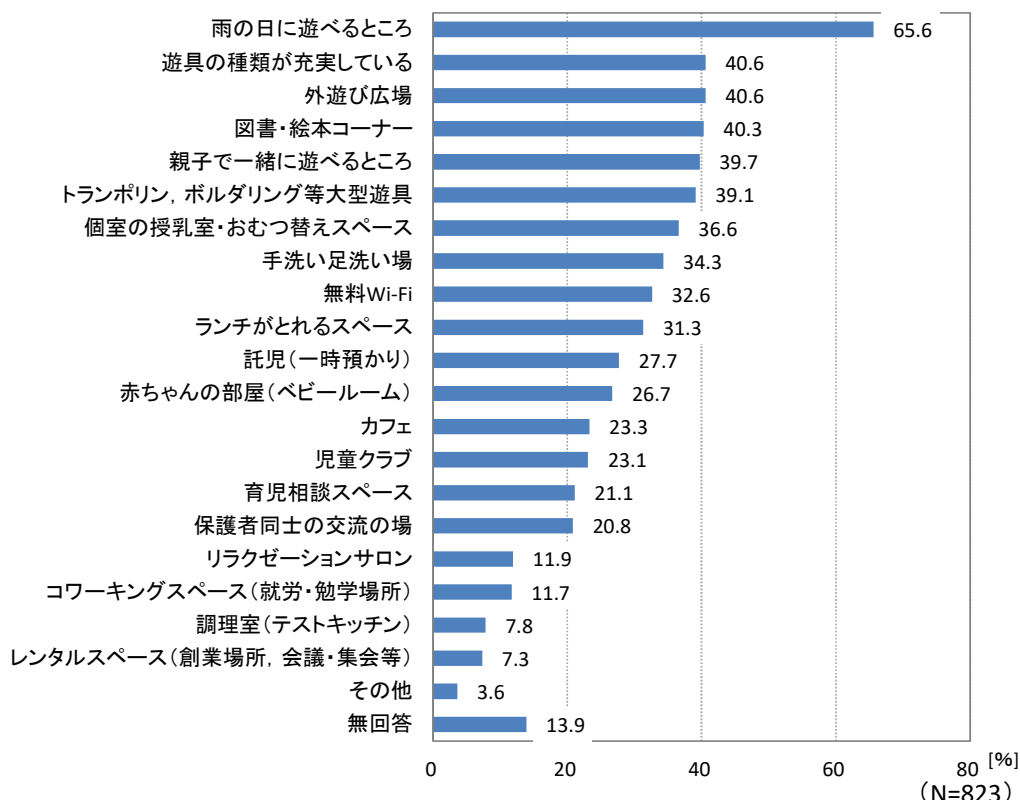
単語1	単語2	共起回数
古い	施設	6
少ない	駐車場	6
利用	預ける	6
一緒に	利用	6
利用	開館時間	5
トイレ	古い	5
利用	学童	5
利用	長期	5
おむつ	スペース	4

- 42 -

■再構築する第1児童館にあるとよい設備等

再構築する第1児童館にあるとよい設備等については、「雨の日に遊べる場所」が65.6%と最も高く、次いで「遊具の種類が充実している」「外遊び広場」(ともに40.6%)の順となっている。「その他」では「駐車場」「公園(園庭を日曜は一般開放)」等の意見があった。

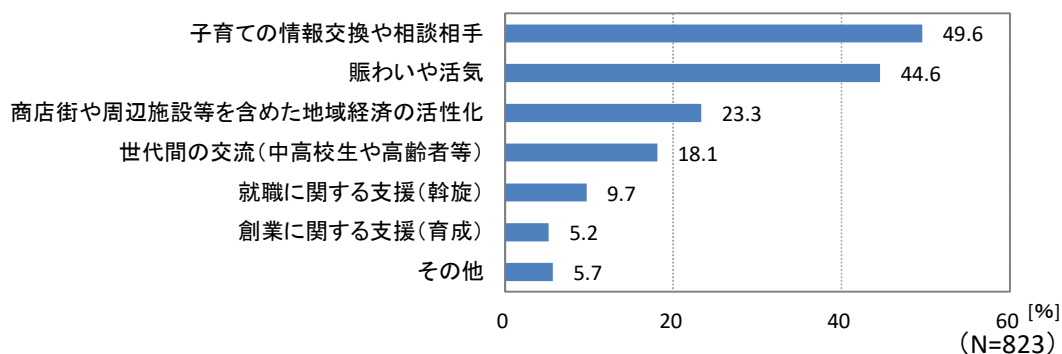
〔再構築する第1児童館にあるとよい設備等〕



■再構築する第1児童館に期待すること

再構築する第1児童館に期待することは、「子育ての情報交換や相談相手」が49.6%で最も高く、次いで「賑わいや活気」(44.6%)、「商店街や周辺設備等を含めた地域経済の活性化」(23.3%)の順となっている。「その他」では「子どもや親が安心して遊べる場」といった意見が多く、ほか「SNS映えスポット」「託児」等の意見があった。

〔再構築する第1児童館に期待すること〕

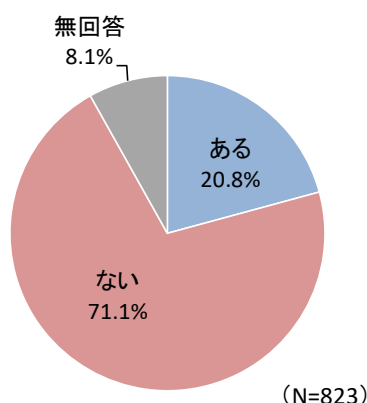


■いままで参加した子ども向け、親子向けのイベントや講座等で印象に残っているもの

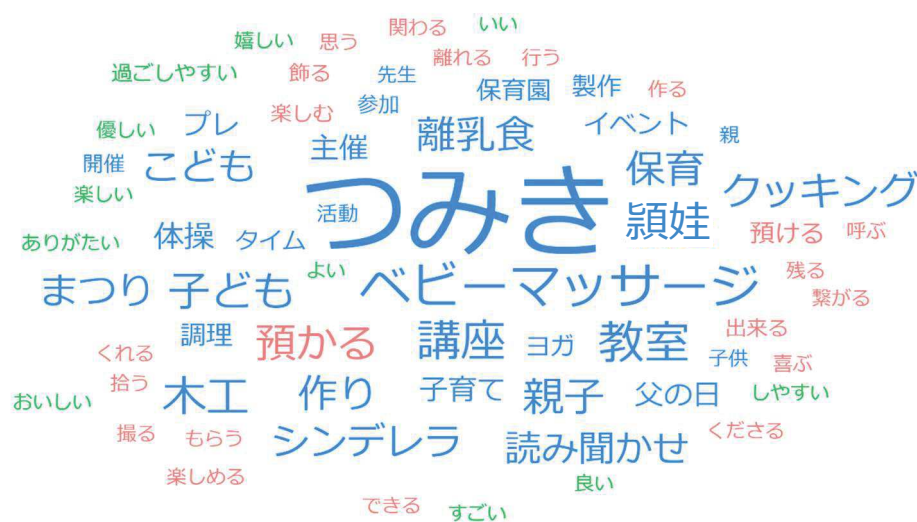
いままで参加した子ども向け、親子向けイベントや講座等で印象に残っているものの有無については、「ない」が71.1%と最も多く、「ある」は20.8%であった。

「ある」と回答した方に、その内容を尋ねたところ、テキストマイニングで分析したところ、子育て支援センター及び利用者支援センター「つみき」の活動に対する意見が多くみられ、「ベビーマッサージ」や「クッキング」、「読み聞かせ」「離乳食」「シンデレラタイム」等の意見があった。

〔いままで参加した子ども向け、親子向けのイベントや講座等で印象に残っているものの有無〕



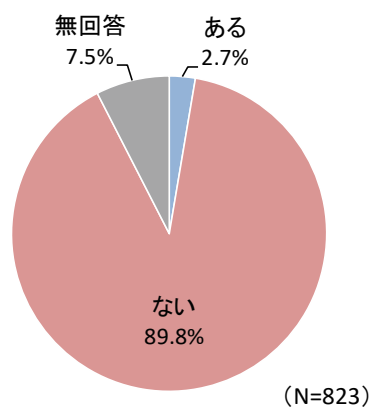
〔いままで参加した子ども向け、親子向けのイベントや講座等で印象に残っている内容〕
(ワードクラウド)



■ご自身が主催した子ども向け、親子向けのイベントや講座等

いままでご自身が子ども向け、親子向けのイベントや講座等を主催したことの有無については、「ない」が89.8%と最も多く、「ある」は2.7%であった。

〔ご自身が主催した子ども向け、親子向けのイベントや講座等〕

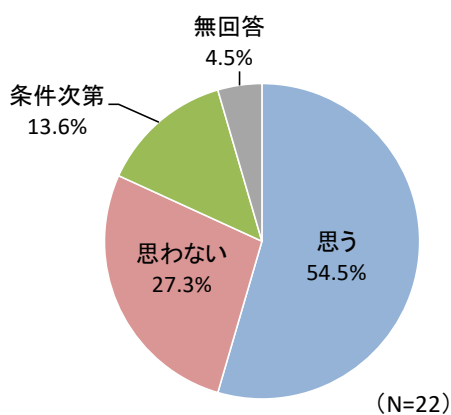


■再構築する第1児童館でも、イベントや講座、新しい企画等を行ってみたいか

再構築する第1児童館でも、イベントや講座、新しい企画等を行ってみたいかについては、「思う」が54.5%で最も多く、「条件次第」も13.6%であった。

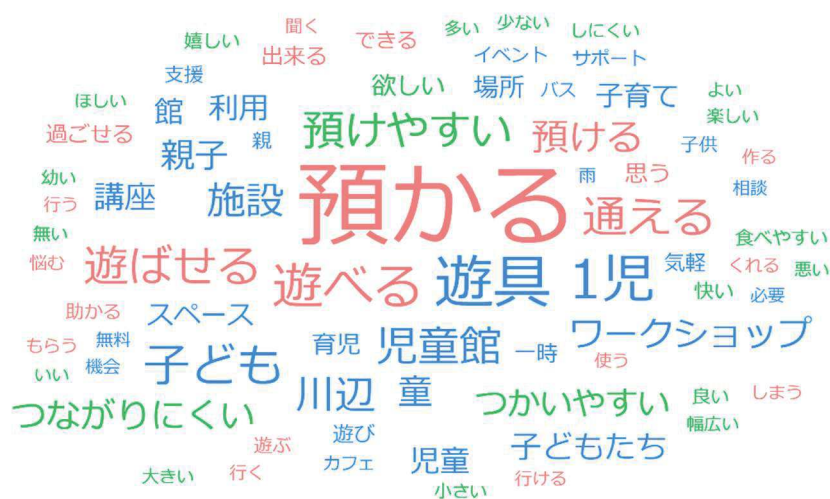
条件次第の回答は、個人ではなく、団体でのイベント開催であれば可能といった意見であった。

〔再構築する第1児童館でも、イベントや講座、新しい企画等を行ってみたいか〕



再構築する第1児童館を活用してやってみたいこと、あると嬉しいサービス等について、テキストマイニングで分析したところ、「預かる」「遊べる（遊ばせる）」「ワークショップ」等の単語の出現回数が多くなっており、有料・無料に限らず、子どもの預かりやワークショップ等のイベント開催を求める意見がみられた。共起回数では「相談できる」が最も多く、「場所 できる」「子ども 思う」等、親や子どもが気軽に集える、居場所が求められていることがうかがえる。

(上位 共起回数)



単語1	単語2	共起回数
できる	相談	10
できる	場所	9
子ども	思う	8
地域	親子	8
思う	預かる	7
できる	親	7
一時	預かる	6
相談	親	6

■子育ての環境や支援への現在の満足度



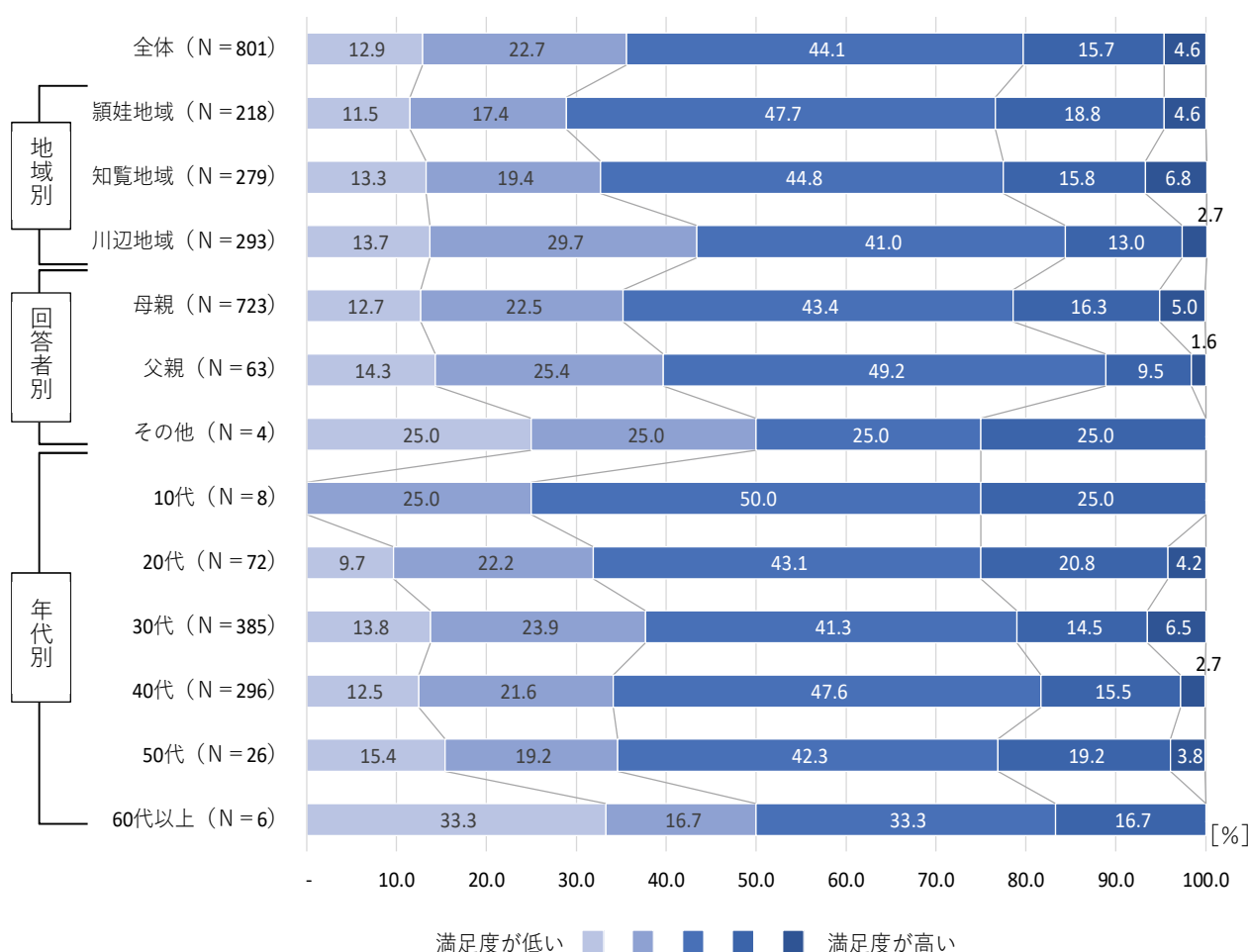
お住まいの地域における子育ての環境や支援への現在の満足度は、3ポイントを基準値（ふつう）とした場合、全体平均は 2.77 ポイントとなり、やや満足度が低い結果となった。満足度が「高い（5ポイント）」「やや高い（4ポイント）」の合計は 20.3%（無回答を除く）であった。

地域別でみると、穎娃地域、知覧地域に比べ、川辺地域は満足度が低くなっている。

回答者別でみると、父親に比べ、母親の満足度が高くなっている。

年代別でみると、30～40代、60代の満足度が低くなっている。

〔子育て環境や支援への現在の満足度（全体・地域別・回答者別・年代別）〕



教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関する意見を、テキストマイニングで分析したところ、「公園」「子ども」「遊具」「学童」「遊べる」「少ない」等の単語の出現回数が多くなっている。共起回数では、「公園 子ども」が最も多く、「公園 遊具」「公園 欲しい」等、気軽に遊ぶことができる公園を求める声が多くなっている。また、一時預かりや放課後児童健全育成事業の充実を求める声も多い。

[illegible]

品詞	単語	出現回数
名詞	公園	91
名詞	子ども	90
名詞	利用	61
名詞	子育て	50
名詞	支援	36
名詞	場所	34
名詞	学童	32
名詞	遊具	31
名詞	南九州市	28
名詞	施設	27
名詞	保育園	27

単語1	単語2	共起回数
公園	子ども	24
公園	遊具	24
公園	欲しい	23
公園	遊べる	23
公園	少ない	23
子ども	欲しい	22
子ども	思う	19
子育て	思う	17
思う	環境	16
子ども	遊べる	15
支援	欲しい	15
欲しい	遊具	14

(3)意見聴取

①目的

子育て支援活動を実施している有識者及び県内の先進事例先を訪問・視察し、現在の活動内容や、今後の展望、第1児童館に関する要望等をヒアリングしました。ヒアリングした内容は、本計画を策定するための参考とするとともに、市内事業者との施設改修後の協力体制構築も図りました。

②有識者ヒアリング

日 時	令和3年7月9日（金）13：30～15：00
ヒアリング先	特定非営利活動法人 虹花
内 容	■現在の活動内容 ・放課後デイ・放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）ほか、知覧地域で子ども食堂を運営。 ・育児力や食育，行事育に心がけている。おやつは原則手作り。野菜など地域の方から支援いただいて運営。定期的なイベントを開催。 ■今後の課題や要望 ・送迎（ひまわりバスやタクシー等を活用したい） ・相談窓口の開設（高校生等支援の足りていない年代に対するアプローチ）

日 時	令和3年7月21日（水）13：00～15：00
ヒアリング先	HUG（利用者支援センター「つみき」）
内 容	■現在の活動内容 ・神殿小学校保護者による任意団体。HUG 祭り等開催。 ・たくさんのイベント協力を得て，実施できている（横のつながり）。 ■今後の課題や要望 ・フリースクール（学校と連携した逃げ道）の設置 ・高齢者とのかかわり（共生施設。学童とケアが一体になった施設。） ・ひまわり館に代わる，子どもたちの遊び場 （ひまわり館が子どもたちの溜まり場になっている現状） ・第1児童館の開所時間の延長

日 時	令和 3 年 10 月 25 日（月） 10：00～12：00
ヒアリング先	南九州市社会教育課／子育て広場関係者（子育てサポーター）
内 容	■現在の活動内容 ・キラキラくらぶ，子育ておしゃべり広場（2 拠点）で活動。子育てサポーターは登録制で，各地域にサポートリーダーを配置。現在の参加者は 4～5 名程度。今年度，活動は終了予定。 ・父親や祖父母の参加も多く，口コミで広がっている。 ■多世代交流について ・子どもたちと関わることで，高齢者の活力に繋がるのでは。サポートしたい高齢者はいる。役割を明確にし，繋ぐことが重要。 ・小学生や乳幼児と一緒に遊ぶには危険が伴うが，親も一緒であれば選択させてもよい。特に女の子は小さい子と遊びたい気持ちを持っている。 ■第 1 児童館に関する要望・意見等 ・場所（駐車場含む）が分かりにくいので，看板の設置してほしい。 ・冬場はフローリングが寒く，和室を活用している。 ・誰もが来やすい内容や雰囲気。 ・絵本が古く，川辺図書室で入れ替えをしてほしい（移動図書館）。 ・卒園児の集合写真は親子で盛り上がるコンテンツとなる。 ・保健師等専門家への相談ができればよい。

日 時	令和 3 年 10 月 25 日（月） 13：00～14：00
ヒアリング先	南さつま市市民福祉部子ども未来課
内 容	■南さつま市の子育て支援について ・現在の南さつま市における支援内容をヒアリング。 ・保育人材不足については南さつま市でも喫緊の課題。鹿児島市に進学すると，そのまま鹿児島市内で就職してしまうことが多いことから，連合会として県外からの UI ターン向けに保育人材募集を PR していく予定。 ■第 1 児童館改修に向けたアドバイス ・フードバンク（子ども食堂などの物資支援）を考えるとよいのでは。 ・親子に向けて，どんなところだったら行きたいか，聞いてみてもよい。

③先進事例視察

日 時：令和3年10月20日（水）10：00～11：45

対応者：（先方）鹿児島市こども未来局こども政策課交流係 高橋主幹，川野氏

（当方）南九州市福祉課子育て支援係 高吉係長，朝隈主任主査

株式会社九州経済研究所 鉾之原主任研究員，西村研究員

訪問先：鹿児島市すこやか子育て交流館（りぼんかん）

施設概要：



1. 施設の運営・管理について

(1)計画

- ・平成 22 年に愛称募集し、子育てをリボンのように繋げ合う場所であってほしいとの願いから「りぼんかん」に決定。一般公募。

(2)運営・管理方法

- ・休館日は毎月第 1 月曜日（点検）及び年末年始。
- ・開館時間は当初 10：00～18：00 ニーズに合わせて 9：00～17：00 に変更。
- ・市直営。会計年度任用職員を任用。25～30 名体制。子育て支援員 16 名については、全員が有資格者であり、うち 11 名は保育士資格を有するため、一時預かりも対応可能。シフト制。
- ・採用募集については会計年度任用職員の募集（市 HP）、ハローワークが主。ほかにピンポイントで電話するなどしてアプローチ。

2. 事業の内容について

(1)施設の事業内容

- ・ミニイベントについては子育て支援員にて対応。毎日なんらかのイベントを実施。講座については、ほぼ外部委託（登録している先生にお願い）。託児が可能（公用託児）。
- ・一時預かりは、9：00～16：30 まで（りぼんかんの開所時間に合わせる）。事前面接要。保育料を 500 円／時間徴収。支援員を託児所に 4 名配置。シフト制で、8：30～15：15 の A 勤務、10：30～17：15 の B 勤務の 2 パターン。

(2)利用状況

- ・利用は小学校 3 年生まで。未就園児利用が大半。
- ・一時預かりは、年齢や配置次第であるが、およそ 10 名が定員。利用の約 75%が 2 歳未満。利用目的は仕事が約 23%，通院やりぼんかん利用（公用託児）がともに約 16%。市内利用がほとんどであるが、市外利用も 3～4%あり。固定客もいる。週 2 回まで利用可。他の施設と併用可。
- ・他の施設情報なども掲示して連携を図っている。



3. その他（親子つどいの広場の運営，子育て応援ポータルサイトの運用）

- ・親子つどいの広場は指定管理 5 年。ひろば型。8 名配置で 2 名は託児と契約上取り決め。
- ・子育て応援ポータルサイトは市の契約運用。随時情報発信には SNS（Facebook）とゆめすくすくメールを活用。月 2 回程度の配信。

日 時：令和3年10月20日（水）13：30～14：40

対応者：（先方）社会福祉法人鹿児島県社会福祉事業団 たにっこりん館長 吉本氏

（当方）南九州市福祉課子育て支援係 高吉係長，朝隈主任主査

株式会社九州経済研究所 鉾之原主任研究員，西村研究員

訪問先：鹿児島市南部親子つどいの広場 たにっこりん

施設概要：



1. 施設の運営・管理について

(1)計画

・鹿児島市からの指定管理。鹿児島市が建造（什器類もすべて配置）。

(2)運営・管理方法（決定までの流れ）

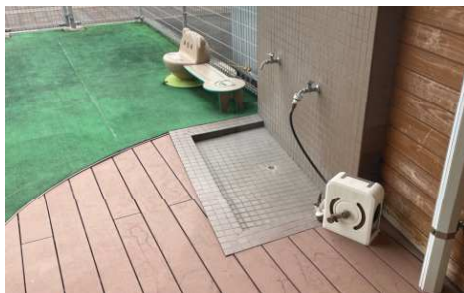
・職員14名，常時8名配置（うち2名託児）のシフト制。保育士・幼稚園教諭のほか，看護師・助産師等も配置し，専門職ごとに制服を変えることによって，相談しやすい体制にしている。

・鹿児島大学，鹿児島国際大学のゼミ生受け入れあり。鹿児島南高校のサマーボランティアもいる。地域連携についても仕様で求められており，今後高齢者福祉センターとの連携も検討中。

2. 事業の内容について

(1)施設の事業内容

・広場はフラットで、開放的。死角がなく、目が行き届くように配慮。冬場でも暖かい畳を2箇所。明るくて居心地が良いと好評。



- ・人工芝の外遊び広場あり。砂場が喜ばれている（2年に一度補充，毎日消毒）。ミストシャワーを設置。ミニミニイベント（シャボン玉遊び）などにも活用。
- ・子ども広場から見渡すことができ，足洗い場を併設。

・他施設の情報や，隣接する保健センターの情報を掲示。イベント等で製作したものも掲示し，1～2週間後に持ち帰ることも可能。

・ブロック会議を2回／年，運営会議を4回／年実施。地域民生委員，保健センター，発達相談所，保育所，こども園，幼稚園と学習会やGWなどで情報交換を図っている。

・ことばの相談も増加中。相談室を完備。

(2)利用状況

・200名／日の利用。主に0～3歳児が対象。コロナ対応として35組までの入館制限（1時間）。入館待ちは施設もしくは車で待機し，TEL連絡も対応。お父さんの利用も多い。

・一時預かりは，空き状況を掲示してお知らせ。8名定員。最後に渡すお手紙で様子を伝えている。冷蔵庫・洗濯機等を同室内に配置。県外利用も多く，4月以降は待機児童の利用が多かった。講座による公用託児利用も多い。2～3時間利用が大半。

（4か所ある親子つどいの広場のうち，なかまっち以外は一時預かり有り。ニーズは高いが，料金が高いことが懸念。）



- ・託児については利用方法とともに空き情報を掲示。
- ・インターネット上でも公開。
- ・気軽に利用してもらうために，利用目的についても情報公開している。

3. その他

・保健センターと隣接していることが強み。保健センターで受け入れが難しい場合の相談対応や，ひとりの時間が必要な保護者に対して一時預かりを案内するなどして連携できている。

日 時：令和3年10月21日（木）10：00～11：30

対応者：（先方）霧島市役所保健福祉部子育て支援子ども・子育てグループ

出口グループ長，吉村主査

霧島市こども館（株式会社エルグ・テクノ） 徳石館長

（当方）南九州市福祉課子育て支援係 高吉係長，朝隈主任主査

株式会社九州経済研究所 鉾之原主任研究員，西村研究員

訪問先：霧島市こども館

施設概要：



1. 施設の運営・管理について

(1)計画

- ・ "家族" で遊ぶ施設として設置。令和3年7月16日（金）開館。
- ・ 場所や老朽，ロケーションから検討し，国分ハイテク展望台を改修して，現霧島市こども館にすることが決定。駐車場は自動車52台，バス2台分。休みには近隣の駐車場を開放してもらって大人数に対応している。（公共交通無し。）
- ・ 現在愛称を募集中。休館日は毎週火曜日（近隣施設の月曜休館を考慮）。

(2)プロポーザルの方法（決定までの流れ）

- ・ 屋内遊具，屋外遊具，運営団体はすべてプロポーザル審査。（令和2年12月公募，令和3年3月には決定，4月から実施）
- ・ (株)エルグ・テクノに業務委託。他，社会福祉法人からの公募有り。3年後，水道光熱費や保守等の料金が見積れるようになるタイミングで指定管理制度への移行を検討中。

2. 事業の内容について

(1)施設の事業内容

・屋内遊具は未就学児を対象。会員証を発行。ただし、小学生の兄弟組にも楽しんでもらえるように、本やゲームなどで対応している。



- ・半屋内にあるソラノ広場は、裸足で利用可能。
- ・手作りの遊び場道具を用意。

・こども館だよりを発行。月次イベント、季節イベントは契約上決められ、委託先の計画によるもの。リピーターにも楽しめる内容。ママヨガ・親子ヨガなども実施しており、その場合には職員による託児有り。運営者主催の場合のみ、展望室を貸し切り可。日曜日にはレストランが開館しないため、キッチンカーを呼んで昼食に対応。フーズトラック協会員に絞る等、反社確認を徹底。

・相談事業はなし。専門施設へ繋ぐようにしており、ここで完結しない、横連携を図っている。そのため、話がしやすい環境づくりや情報提供を実施。

・常時6名体制（8名のシフト制）。1名を除き、有資格者。

(2)利用状況

・屋内施設で10,000人を突破。1/3は市外からの利用。観光客も多い。

・Airウェイトを活用し待ち時間を明記。日本エア遊具安全普及協会のガイドラインにより、2.5平米／人を基準に、7割程度になるように調整。

(3)今後の課題

・子どもの遊び場のすみ分けがうまくいかないこともあり、今後検討が必要。



↑施設外観。以前の外観のまま。



↑天気が良ければ絶景のロケーション。